

学校建築に求められる視点

これまで杉並区の学校施設は、昭和 30 年代後半から 40 年代にかけて木造校舎を不燃化するための改築や、児童生徒の急増に伴う教室不足を補うための増築を行ってきました。しかし、一方でこれらの校舎の老朽化の進行や耐震性の懸念から、今後いくつかの学校が改築の時期を迎えます。

当時の改築は、木造校舎の不燃化や児童生徒の急増への対応が急がれ、片側廊下に教室が並びといった画一的な校舎が一般的でした。その後、学校教育を取り巻く環境は大きく変化し、学校は子どもたちの「学びの場」、「集団生活の場」、さらには「地域に身近な公共の施設」という多様な視点が学校施設に求められてきています。

現在、杉並区には小学校 44 校、中学校 23 校があります。今後、いくつかの学校が改築の時期を迎えますが、これは個性ある多様な学校施設に生まれ変わるチャンスでもあります。

そこで、これからの学校づくりにあたって、次のような視点を考えてみました。

学校づくりに求められるもの

従来の学校建築は、ともすれば教育委員会や先生といった「大人」の意向が強く反映され、大人による児童の管理がしやすい施設とされがちな傾向にありました。教育活動や事故防止等の観点から考えると、先生が児童を常に把握し、見守っていることは学校生活の中では大切なことです。

しかし、学校の主役は児童生徒であり、単に管理がしやすい施設ということだけではなく、子どもたちの視線（視点）から学校施設をとらえて計画していくことが、これからの学校施設に求められてきています。

区は、未来を担う子どもたちが楽しく学び、思いやりのある心とたくましく生きる力をはぐくむことができるよう「子どもたちが楽しく通いたくなる学校」を目指して、学校づくりを考えていきます。

1 「学びの場」としての学校

< 高機能で多機能な学習環境の整備 >

一斉指導による学習のほか、ティームティーチング（TT）による学習や、個別・少人数指導による学習、グループ学習、または総合学習など、さまざまな学習に対応できる教室をつくります。

情報機器の導入や校内情報ネットワークの整備、さらには図書館と視聴覚室及びコンピューター教室のつながりを強化し、「調べる」「学ぶ」「発表する」といった一連の学習が効果的に行えるような施設づくりを目指します。

総合的・体験的な学習に対応するため、地域社会や周辺環境に考慮した地域の人材や地域の環境を生かせる施設づくりに努めます。

2 「集団生活の場」としての学校

< 健康的かつ安全で快適な施設環境 >

(1) 健康で安全・安心・快適な学校

一日のほぼ 1/3 を学校で生活する児童生徒が、学校生活を快適に過ごすことができるような親しみやすい学校にします。

不審者の侵入防止や犯罪防止について十分な対策を講じるとともに、さまざまな人への配慮が盛り込まれたユニバーサルデザインに努めます。

(2) 地球環境に配慮した学校

区教育施設では、平成 14 年度に環境マネジメント国際規格 (ISO14001) を取得し、運用しています。こうしたことから、資源の再利用や自然環境に配慮し、子どもたちが自然に親しみながら環境教育の向上につながる施設とします。

資源の有効利用や建設廃棄物の排出を考え、耐用年数の長い建物をつくります。また、建築の際に使用する外装材、内装材、設備機器等の材質に注意し、化学物質による児童生徒への健康面に充分配慮します。

3 「地域の公共施設」としての学校

< 地域に開かれた学校づくり >

(1) 地域の拠点としての学校

学校は、地域の財産・シンボルであり、また、地域社会のコミュニティーの核としての役割と、生涯学習の役割が期待されています。このため、防犯に配慮しつつも、学校開放の運営や管理等も考慮した地域に開かれた学校とします。

(2) 震災救援所として有効に機能する学校

区内の小中学校は、大震火災時の震災救援所として指定されています。建築計画にあたっては防災機能の充実を図り、避難・救援活動等が円滑に行える施設とします。